

経済成長で変化するインドの食料需給構造

基礎研究部 部長 清水徹朗

1 成長を続けるインド経済

1990年代まで長期にわたり停滞していたインド経済は、2000年頃より成長路線に転じ、近年は年率8%程度の経済成長を続けている。その契機になったのはIT産業の発展であったが、その後IT以外の産業も発展してきており、インドはBRICSの一つとして世界的な注目を集めようになっている。その結果、国民所得の水準が向上し、中間層も形成されてきた。

2 変化する食料消費構造

経済成長に伴って食料消費構造が変化することは戦後の日本が経験したことであるが、今日のインドでも同様の現象が起きている。具体的には、畜産物(肉、卵、乳)や植物油の消費量が増加し、その一方で米や雑穀の消費量が減少している。

食料消費量(国民1人当たり)の過去10年間の変化をみると、植物油は都市部13.6%増、農村部27.3%増、鶏肉は都市部3.0倍、農村部3.1倍、鶏卵は都市部29.8%増、農村部59.0%増と大きく増加している。その一方で、米は都市部8.7%減、農村部6.8%減、雑穀は都市部56.6%減、農村部49.4%減と減少している(インド農業省「Agricultural Statistics at a Glance 2011」)。

3 穀物の需給動向

(1) 単収増による穀物生産量増大

インドの人口は12億2千万人で中国(13億7千万人)の約9割であり、インドの穀物生産量は2億3,491万トン(2010年)と膨大で、世界全体の9.7%を占めている。ただし、インドの穀物生産量は人口が同程度の中国の5割であり、人口が4分の1の米国の6割の水準である。

生産している穀物の内訳は、米1億2,062万トン、小麦8,071万トン、とうもろこし1,046万トン、その他(雑穀等)1,952万トンであり、米

と小麦が中心である。米は降水量が多い東部と南部が主産地であり、小麦は北部が中心であるが、灌漑の普及により北部のパンジャブ地方において米の生産量が増大した。

穀物の生産量は過去40年間で1.9倍に増大しており、増加するインドの人口(40年間で2.2倍)を支えてきた。生産量が増大したのは高収量品種の導入、灌漑の普及(「緑の革命」)により単収が増加したためであり、収穫面積は横ばいで推移してきた。

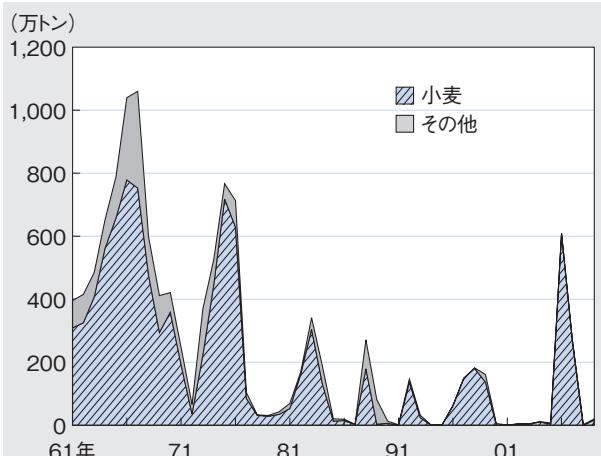
なお、インドでは、インド食料公社(Food Cooperation of India)が米、小麦を公定価格で買い上げ、貧困者向けに低価格で販売しており、食料公社は食料安全保障において大きな役割を果たしている。

(2) 輸入国から輸出国へ転換

インドは、70年代までは食料が恒常に不足し小麦を大量に輸入しており、67年の穀物輸入量は1,060万トンであった(第1図)。しかし、生産量増大の結果穀物の輸入量は減少し、逆に90年代以降はインドは穀物の輸出国に転じている。

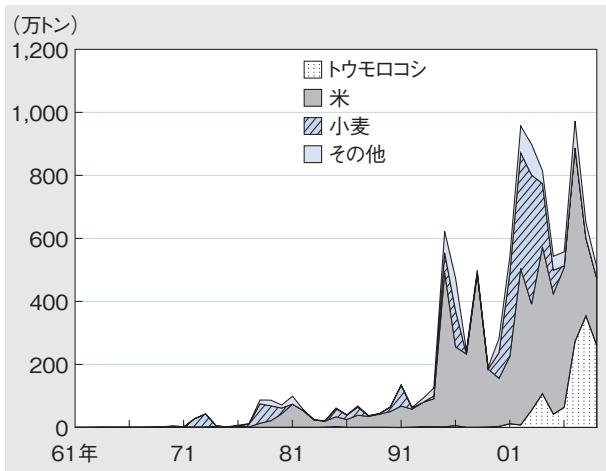
インドはブランド米であるバスマティ米(香

第1図 インドの穀物輸入量



資料 FAOSTATから作成、以下同じ

第2図 インドの穀物輸出量



り米)を恒常に輸出しており、非バスマティ米も余剰が出ると輸出するため、07年には米の輸出量が614万トンとなり、インドはタイに次ぐ世界第2の米輸出国になった。現在もインドは穀物を輸出しており、特に近年ではトウモロコシの輸出増が目立っている(第2図)。

4 急増する鶏肉、鶏卵の消費量

12年3月にインド中部の大都市ハイデラバードの近郊農村を訪問する機会があり、その際に車窓から大きな養鶏場をいくつか見た。

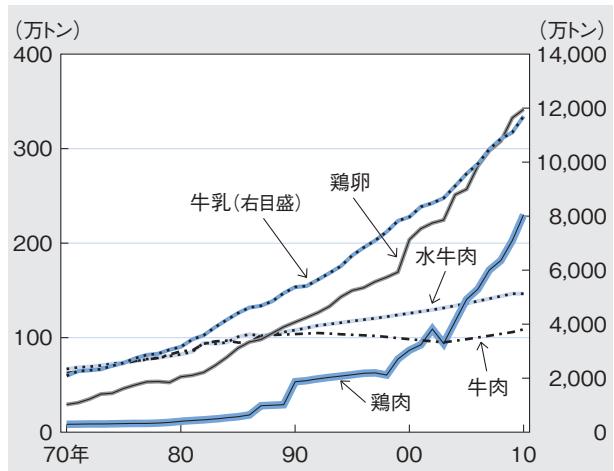
インドでは、宗教上の理由等により牛肉、豚肉を食べない人が多く菜食主義者の人もいるが、タンドリーチキンに代表されるように鶏肉は比較的食べられており、既にみたように近年鶏肉、鶏卵の消費量が急増している。その結果、インドの鶏肉の生産量は過去10年間で2.7倍、鶏卵の生産量は1.7倍に増加している(第3図)。

また、インド国民のタンパク質摂取において牛乳が大きな役割を果たしており、インドの牛乳生産量(水牛の乳を含む)は1億1,700万トンで世界最大であり(米国8,746万トン、中国4,115万トン)、牛乳の生産量はこの10年間で46.9%増加している。

5 今後の見通し

経済成長を続けているとはいえ、インドには現在でも貧困者が多くおり、栄養不足人口

第3図 インドの畜産物生産量推移



は2億人を超えており。その一方で、インドは農産物の純輸出国であり、09年におけるインドの農産物輸出額は157億ドル(主な輸出品目は米、油かす、スパイス、肉類、タバコ等)、農産物輸入額は128億ドル(主な輸入品目は植物油脂、砂糖、豆類等)で、農産物の貿易収支は29億ドルの黒字である。慢性的な貿易赤字が続いているインドにとって農産物輸出は非常に重要であり、政府は農産物輸出に注力している。

ただし、インドは穀物輸出国ではあるものの生産量に占める輸出量の割合はわずか2%に過ぎず、干ばつ等によって生産量が減少すると穀物の輸出量は減少し、特に、国際穀物価格が高騰した07年にはインドは米(非バスマティ米)の輸出規制を行った。

インドの人口は膨大であり、インドの食料需給が世界の食料需給に与える影響は大きい。また、急増しているとはいえるインドの肉類消費量は諸外国と比べるとまだ低水準であるため、今後経済成長に伴って畜産物消費量がさらに増加する可能性があり、それに伴って飼料用穀物の需要が増大することが予想される。インドでは化学肥料の使用量が少ないとあって穀物の単収は低く、今後単収増加の可能性はあるが、水の確保が難しくなっている地域もあり、インドの穀物需給の動向については今後注視していく必要がある。

(しみず てつろう)